

世界で20,000台展開 アメリカ発のコイン換金機 「Coinstar® (コインスター) 」 アジア初 日本に上陸！ —2018年7月27日（金）よりアピタにて先行導入開始—

コインスター社（本社：アメリカワシントン州ベルビュー、CEO：Jim Gaherity）は、アメリカで誕生し、現在カナダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、スペイン、イタリア、フランスなど、世界の大手小売店で約20,000台展開するコイン換金機「Coinstar®（以下、コインスター）」を、2018年7月27日（金）、アジアで初めて、日本のユニー（株）が運営する総合スーパー「アピタ」に導入いたします。



■ 「Coinstar® (コインスター) 」とは

「コインスター」とは、1991年にアメリカで誕生した、硬貨を紙幣に変えられるサービスです。家の貯金箱に眠ったままの小銭など、余っている硬貨を小売店に設置されたコインスターのマシンに投入すると、毎分600枚の速さで硬貨の枚数・金額を算出します。硬貨のカウント後、画面に表示された合計金額で引換券を発行すると、サービスカウンターで紙幣に交換することができるサービスです。海外の小売店では、算出した硬貨をAmazon.comなどのオンラインギフトポイントや、慈善事業への寄付金に変換することも可能です*1。

現在、アメリカ全土の小売店や、ヨーロッパの大手小売店に約20,000台を設置し、年間約430億枚の硬貨を両替・換金しています。

*1 2018年7月27日 アピタ3店舗への導入時には、紙幣への変換サービスのみを展開予定。

■ 日本における導入背景

先進国の中で、日本は突出した「現金大国」として知られています。2015年に国際決済銀行（BIS）が発表したデータによると、現金流通残高の対名目GDP比は、日本が19.44%で24カ国・地域中第1位^{※2}と発表されています。このような日本における現金の流通事情を踏まえ、コインスター社は日本に潜在的な市場を見出し、北米・ヨーロッパ以外で初めてコインスターを導入する運びとなりました。

コインスターのサービスを導入することで、大量の硬貨の使い道に困っている消費者が、小銭を有効活用できる機会を創出し、また店舗でのスムーズな紙幣化を行うことで、導入店舗における売上額の増加が期待されています。

※2 国際決済銀行（BIS）が傘下の決済・市場インフラ委員会（CPMI）加盟国、24カ国・地域について取りまとめた、2015年BIS決済統計のデータより

■ コインスター 使用方法



※2018年7月27日アピタ3店舗への先行導入時には、紙幣への変換サービスを実施。各店舗の営業時間内にコインスターを利用し、発行した引換券を当日4時間以内に店舗内のサービスカウンターに持参すると、紙幣に変換することができます。

<導入店舗>

2018年7月27日（金）より、下記3店舗に先行導入いたします

- ・アピタテラス横浜綱島（横浜市港北区綱島東四丁目3番17号）
- ・アピタ長津田店（横浜市緑区長津田みなみ台4丁目7-1）
- ・アピタ戸塚店（横浜市戸塚区上倉田町769番1）

■ コインスター社について

1991年、当時のスタンフォード大学院生が、自宅に眠っている大量のコインを、金融機関に持ち込むことなく、“価値ある現金”に変換できるサービスとして、アメリカで創業しました。1992年、サンフランシスコに1台目のコインスターを設置し、1996年にはアメリカで導入台数1,000台を突破。その後、コインスターはアメリカ全土にまたがる大手小売店や、他ヨーロッパ諸国の小売店にサービスを展開し、現在約20,000台の導入を達成。今後更にヨーロッパやアジア各国でサービスを拡大してまいります。